

# 飲酒運転検挙率が

# 不名誉なワーストワン あなたにモラルを問う

昨年十月から飲酒運転検挙者が急増しています。一月末現在で四人が検挙されており村の飲酒運転検挙率（十月から翌年の九月までの集計）は県内五十八市町村中ワースト（悪いほうからの順位）一位という大変不名誉な順位になってしまいました。飲酒運転は、重大事故に結び付く可能性が極めて高いだけに村交通安全対策協議会（会長、深渡宏村長）が、緊急に対策会議を開催。飲酒運転撲滅のための啓発用チラシを各世帯に配布することを決めたほか、村内全域に飲酒運転撲滅にむけた放送を約一週間流し、交通安全を再認識してもらうよう呼びかけることにしました。会議終了後は、出席者全員で啓発用チラシやポスターを持参、村内十二飲食店に飲酒運転撲滅の協力などをお願いし、村民一丸となった飲酒運転撲滅運動がスタートしました。

## 飲酒運転で村非常事態 撲滅の緊急会議を開催

「飲酒運転撲滅」緊急対策会議は、二月二十七日、役場会議室を会場に、久慈警察署 普代駐在所の萱場久司所長、県交通安全協会普代分会太田 岩蔵会長、村交通指導正路俊 光隊長、村交通安全母の会、落合さち子会長ら十人が出席して開かれました。

村交通安全対策協議会長の深渡村長は、「飲酒運転検挙率が一月末で県下最悪の一位となってしまいました。まことに由々しきことです。汚名返上のため啓発活動に全力で取り組んでいた

「飲酒運転撲滅」緊急対策会議は、久慈警察署普代駐在所の萱場所長を中心に、飲酒運転撲滅運動の取り組みなどについて話し合われ、①情報連絡施設を利用し、飲酒運転撲滅の啓発放送を一日一回夕方に一週間流す ②啓発用チラシを各世帯に配布する ③村内十二飲食店に啓発用チラシ、ポスターを配布し協力を願う など飲酒運転撲滅に向けた活動が開始しました。

## 酔いもさめたし大丈夫 甘い考えが大惨事を

久慈署管内の飲酒運転検挙者は、二月末（注）で五十四人と昨年一月末現在（注）の六十一人よりは減少してはいるも



村内の飲食店を訪れ、飲酒運転撲滅の協力を呼びかける萱場所長（中央）ら

の普代村は、昨年の一月末（注）検挙者状況は五十八市町村中、四十二位の一人でした。がそれを大きく上回り一月末現在（注）で四人と急増しています。「自分だけは大丈夫、酔っていないから」といった甘い考えで飲酒運転すると言われています。酒を飲むと酔っていないつもりでも、飲酒は確実に影響し、判断力、抑制力、運動機能などがかなり低下し、事故の原因となります。

注）一月末現在（平成十四年十月からの集計）  
昨年一月末現在（平成十三年十月からの集計）